

「これから」を創る 変わりゆくものと変わらない想い

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の収束が見通せない中、国民の命を守り続けておられる医療・介護事業に関わる方々に対し、心からの敬意と感謝を表します。今年3月以降、私たちユニ・チャーム メンリッケの活動も大きく変化しました。

これまで担当TENAアドバイザーが一軒一軒のお客さまを訪問しスタッフの皆さまと共に、現場で起きている問題の解決や、更なる改善のためのチーム活動の活性化等に取り組ませていただいていたのですが、直接訪問がなかなか叶わない中で、ZoomやSkype等のオンラインツールを活用したお客さまとのコミュニケーションを新たに開始、またお電話で近況をお伺いさせていただくなどコロナ禍においてもお客さまの現場活動が停滞しないことを願い活動してまいりました。

このような社会情勢のなか新たにTENA製品をご利用いただいたり、布製品による清拭をTENAウェットワイブに切り替える、水を使った陰部洗浄をTENAウォッシュクリームによる洗浄に



切り替える等、新たなケアへの転換に取り組まれるお客さまがますます増えてきています。これは日頃よりTENA製品をご利用いただき、ご利用者さまの尊厳を大事にしたコンチネンスケアを実践されている多くのお客さまが、コロナ禍に負けず・感染対策とより良いコンチネンスケアの両立に対し、勇気と情熱をもって取り組まれている証であり、「良い風土・文化の醸成」「組織開発・人材育成」をテーマとして組織運営に尽力されているお客さまの強さを改めて感

じております。

来年度の介護報酬改定において「排せつ支援加算」の拡充が予定されている模様です。介護施設の皆さまにとって、排せつケアは日々の主要なケアの一つであると共に、ご利用者さまにとってもより良い生活を続ける上でとても大事なケアであることは改めて言うまでもありません。私たちユニ・チャーム メンリッケは、より良いケアは「良い製品・良い人・良い仕組み」が揃うことによって成立すると考え、製品改良・人組織の活性化・現場への仕組みの導入定着に、お客さまとともに取り組んでまいりました。今回の排せつ支援加算の拡充を追い風として、これまで以上に「ひとりの人を大切に」の心でご利用者さまに寄り添った安全で安心なケアの実現に貢献できますよう歩みを進めてまいります。引き続きご支援・ご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

ユニ・チャーム メンリッケ株式会社
代表取締役社長 森田 徹



2021年度介護報酬改定

Pick UP

「排せつ支援加算」(100単位/月)⇒「要件緩和」と「アウトカム評価を新設して上乘せ評価」

2021年度介護報酬改定では、排せつの要介護状態の改善が見込めるご利用者に対して、支援計画を作成して実際にケアを提供した場合に算定できる現行加算を拡充するため、特定の利用者について加算を申請する「利用者単位」から、利用者全員をスクリーニングする「事業所単位」の評価に変更されます。ただし、加算申請にはデータベース「CHASE」への情報提出が新たに必要となります。

その上でデータに基づいて、「排便または排尿の状態改善」「おむつ使用者がおむつ不使用者になる」の両方またはいずれかを達成すれば「アウトカム評価」(新設)により、利用者単位で報酬を上乘せできます。

ほかにも、介護老人保健施設(老健)では30%が算定しているのに対して、特別養護老人ホーム(特養)では7.2%と算定が進んでいないことから、継続的な取組みを後押しするため「6カ月」の算定期間を撤廃するなどの要件緩和を検討されています。



排せつ自立のポイント

排せつの自立を目指すためには、排せつ支援だけではなく、トイレへの移動・座位を保つなどの身体機能や、食物繊維をしっかりとる栄養改善など幅広く取り組むことが重要です。

ご利用者の生活がより豊かになるように、多職種で評価し改善に向けたケアを行うことが求められます。

改定の方向性

- ①「利用者単位」から「事業所単位」の評価に変更
- ②現行6カ月の算定期間を撤廃
- ③加算算定には「CHASE」等データ提出が新たに必要
- ④介護保険3施設とともに看護小規模多機能型も申請対象サービスに追加
- ⑤既存の加算算定施設は移行期間(猶予期間)を設ける
- ⑥排せつ状態の改善等を評価(アウトカム評価の導入) / データベース「CHASE」を活用し、「排便・排尿の状態のいずれかが改善」「おむつ使用者がおむつ不要になる」のいずれか1つ以上が達成できれば、新設加算により利用者単位の乗せ加算で評価

CHASEを活用したPDCAサイクルって何?

「CHASE (チェイス)」とは、厚生労働省が運用する介護分野でエビデンスを蓄積するためのデータベースです。ADLや栄養、口腔・嚥下、認知症などの基本的項目のデータを収集します。

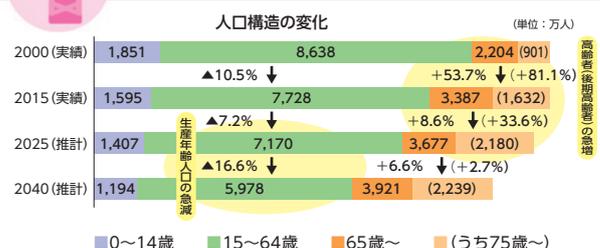
計画書の作成を要件とするプロセス加算(現行の排せつ支援加算等)について、計画書の内容をデータ連携したり、フィードバックを受けてご利用者の状態やケア実績の変化を踏まえた計画書に改善するなど、データに基づいたPDCAサイクルに取り組む方針が示されています。

多職種で連携し、未来に繋げる介護へ

2021年度介護報酬改定が目前に控えています。今年は、新型コロナウイルス感染症の拡大や、大規模災害の発生を受け、これまでの検討の方向性①地域包括ケアシステムの推進②自立支援・重度化防止の推進③介護人材の確保・介護現場の革新④制度の安定性・持続可能性の確保——のほか新たに「感染症や災害への対応力の強化」が加えられました。

現在(12月2日時点)、厚生労働省は介護給付費分科会で主な改定の論点を示しています。サービス全般で共通している点として①多職種が一丸となって利用者の自立生活を支援・評価②厚労省のデータベース「CHASE」「VISIT」を活用した評価③ICTの活用——が盛り込まれています。

これからの日本はどうなるの?



2040年に向けて高齢者は急増する一方で、働き手世代は減少。介護現場では、業務効率化など働き方改革が急務の課題となっています。

寝たきり改善でQOL向上

今回の介護報酬改定では「適切な介入による寝たきり改善」を掲げられており、施設系サービスで適切な離床やリハビリテーションを実施するための計画策定や、取組みが評価される方向です。離床を促すことは、排せつ障害の予防や意識障害の改善などにも繋がることから、よりご利用者の幸福感や人生の満足感も含めた「生活の場としての視点」を重視したケアが求められます。

ご利用者の主体性を引き出しながら、身体・精神機能だけではなく、食事・排せつなどQOLの向上に繋げるケアの提供が重要です。



出典: 厚労省

PICK UP 自立支援・重度化防止の推進

高齢者の自立支援・重度化防止という制度の目的に沿って、質の評価やデータ活用を行いながら、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの提供を推進します。リハビリテーション、口腔、栄養の取組みや連携強化の他、ストラクチャー、プロセス、アウトカム評価を推進。寝たきり防止、重度化防止への取組みを評価して自立に繋がります。

PICK UP 介護人材確保と現場革新

高齢者人口が増加し、介護職員が必要となる一方で、働き手世代が減少していくことから、人材確保と人材定着に向けた現場革新は重大なテーマです。

介護職員の処遇改善や、生産性向上、仕事へのやりがいなど職場環境の改善に向けた取組みを推進するとともに、ロボット、ICTを活用した人員基準や運営基準の緩和、業務負担軽減のための文書負担軽減などが検討されています。

PICK UP 感染症や災害への対応力強化

感染症や災害が発生した場合であっても、ご利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築することが求められています。

日ごろからの発生時に備えた取組み、発生時の業務継続に向けた取組みを推進し、介護報酬上での評価が検討されています。

20年度診療報酬
改定振り返り

病院での排尿自立の取組み

入院時の排尿自立から、退院後も外来で継続した排尿自立を支援

2020年度診療報酬改定で、排尿自立指導料について、200点/週を据え置き、算定期間を「6週を限度」から「12週を限度」に倍増させるなど、大幅な充実が図られました。また、新たに「外来」での算定も認められ、膀胱留置カテーテルの適切な管理を推進する観点から、在宅復帰後の支援にも手厚く対応した改定内容となりました。

排尿自立は多職種で取り組むほど高い効果が得られており、排尿ケアチームが自立した排尿を支援し、患者さまのQOL向上をサポートします。

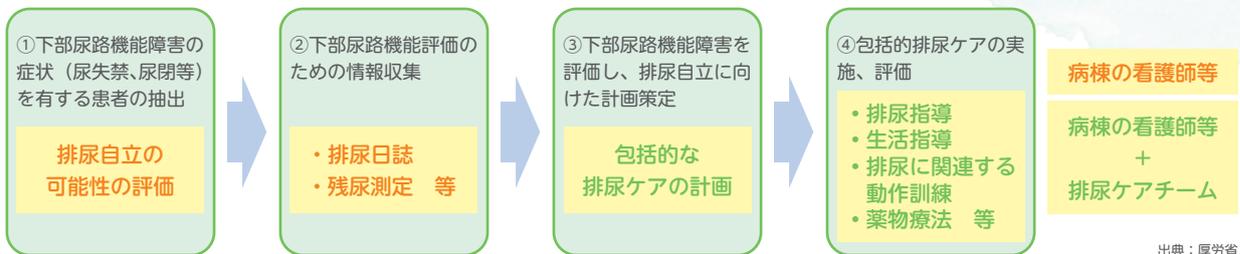
入院時の排尿自立指導の評価

「排尿自立支援加算」(200単位/週・12週上限)

尿道カテーテル留置中・抜去後に下部尿路機能障害の症状がある入院中の患者に対して、下部尿路機能の回復のための包括的な排尿ケアへの取組みを評価する。

〈施設基準〉

医師、看護師、理学療法士または作業療法士で構成される「**排尿ケアチーム**」を設置
排尿ケアに関するマニュアルを作成し、院内研修を実施する



外来時の排尿自立指導の評価

「外来排尿自立指導料」(200点/週・12週上限)

入院中の患者以外の患者で、包括的な排尿ケアを行った場合の取組みを評価。排尿自立支援加算を算定した期間と通算して12週を限度に算定できる

21年度介護報酬改定「排せつ支援加算」拡充

継続的なコンチネンスケアの重要性

私たちユニ・チャーム メンリッケは心身ともに健康で毎日充実した生活を楽しめるようにという「幸福・健康」を意味する「Well-Being (ウェルビーイング)」を大切にしています。尊厳と快適を大切に、関わる全ての方々のウェルビーイングへの想いがTENA製品に込められています。

私たちは、CST(コンチネンス・サポートチーム) 活動を通じて、スタッフの皆さまの様々な視点や想いを共有し、「ご利用者の希望や可能性」を大切に共に考えさせて頂きたいと想い活動して参りました。

紙面でご紹介させていただいたように、21年度介護報酬改定では「排せつ支援加算」の拡充が予定されています。中でも継続的な取り組みを後押しするために「6ヶ月」の算定期間を緩和することや「アウトカム評価」の導入の検討は、目標達成まで腰を据えて取り組むことができ、PDCAサイクルが働きやすく、CST活動の効果をより実感していただきやすくなると考えております。

CST活動など多職種が連携することは、「ご利用者一人おひとりにとって」より良い排せつのケアを多角的に考えぬくことができ、より一層ご利用者の幸福感や満足感を高めていくことにつながるのだと私たちは思います。

また、その一つ一つの活動が介護報酬上でも評価につながるのであれば、組織全体が更に前進し、スタッフの方々にとっても非常に大きなモチベーションの向上になるのではないかと考えております。

今後、社会全体が大きく変化していくなか、皆さまと共に変わりゆく未来を見据え、変わらない想いを大切に「これから」を歩んで参ります。

New!
2021年より順次

TENA スリッパ^{*1} TENA コンフォートミニスーパー

*1：プラス・スーパー・マキシのM、Lサイズの改良となります



お一人おひとりのWell-being
を実現し続けるため
「TENA スリッパ」
「TENA コンフォートミニスーパー」は
よりやわらかく、より快適になります。

Coming Soon!



アンケート

皆さまとともに、
「リーエンダ with TENA」をよりよいものへ

この度、「リーエンダ with TENA」をご覧いただき、誠にありがとうございます。
皆さまからのご意見・ご感想を大切により充実した「リーエンダ with TENA」を
お届けしていきたいと考えております。是非、忌憚なきご意見をお寄せください。

本アンケートはご回答頂いた方の個人情報（個人名・メールアドレス等）を記載して頂く項目はございません。また、個人の
携帯端末からのアクセスであっても個人を特定する情報は収集いたしません。何卒よろしく願いたします。



「リーエンダ with TENA vol.4」
2021年2月末日まで



ダイジェスト「ユニ・チャーム メンリッケ×シルバー産業新聞社 共同アンケート」

「感染対策とより良い排せつケア」 21年度介護報酬改定「排せつ支援加算」拡充へ



ユニ・チャーム メンリッケとシル
バー産業新聞社は10月7日～30日に
かけて、全国の特養500カ所（入所
定員80人～100人規模）に共同アン
ケートを送付、88施設から回答をい
ただきました。

コロナ禍で排せつケアについて
45.5%が「負担が増えた」と回答。
また、感染対策を意識した排せつケ
アの見直しについても71.6%が「見
直し・工夫した」と回答するなど、
従来からの「ご本人の尊厳を大切に

した排せつケアの徹底」とともに、「感
染しない・させない安心」を提供す
ることを同時並行する現場の努力が
うかがえます。

排せつ支援加算 「算定期間撤廃」「報酬引き上げ」を

今回のアンケートでも、排せつ支
援加算の算定割合は4.5%と低調で、
現行の「100単位/月・人・6カ月
限定」を「平均346単位程度」に引
き上げることや、「算定期間の撤廃」
を求める声が多くありました。財源

との兼ね合いで報酬の引き上げ幅は
今後の検討事項になりますが、要件
緩和については、おおむね現場の意
見を汲んだ改定となりそうです。長
期的に取り組みやすい環境づくりの
下支えとなることが期待されます。

現在、「ユニ・チャーム メンリッケ
とシルバー産業新聞社共同アンケー
ト」に関する記事、アンケート結果
をシルバー産業新聞社のニュースサ
イト「ケアニュース」にて公開中です。

公開期間 2021年3月末日まで